

令和7年度第4回芽室町総合計画審議会専門部会 A グループ

参加者： 阿部委員、江口委員、平谷委員、平岡委員、中村委員

欠席者： 佐藤委員、嶋野委員、宿谷委員、高橋委員、丸委員

①上下水道の整備

○質問

無し

○評価の妥当性

妥当 C 5人

委員

成果指標の判断は難しい。計画に沿って順調に進んでいると判断。

委員

担当課評価に更新、布設替え順調と書いてあったため妥当と判断。

委員

計画的な更新ということで妥当と判断。

○今後の取り組みに対する意見

委員

生活排水が気になっており、町民としてできる取り組みを広報してほしい。

委員

災害対策も考慮し、施設の耐震化等を進めていただきたい。

委員

経営安定しているとみている。

老朽化が見込まれ、更新費用が必要になるが、今後人口が減り、収入も減ると思うが対応を
してもらいたい。

未収金についてはどうか。

次田課長

未収金は増加傾向である。理由については様々で、一概には言えない。

委員

実際どんな措置を行っているのか。

次田課長

督促等を行って、それでも改善されない場合は、給水停止となっていく。

②消防・救急の充実

○質問

委員

講習会の回数については。

松久署長

防火講習会 6回 600名

救急講習会 39回 903名

学校、事業所など人が多いところが中心で、町内会は数が伸びていない。

委員

講習会に人数などの制限はあるのか。

松久消防署長

特になし。1人の場合は消防署に来てほしい。

○評価の妥当性

妥当ではない 1人

委員 B

災害の迅速対応、出動件数減少を評価。

妥当 C 4人

委員

成果指標が目標に近づいている。

成果指標③の目標値の設定が高すぎる。

委員

成果指標の向上。

全体の取り組み内容が充実している

○今後の取り組みに対する意見

委員

火災予防は住民意識の向上が大事である。

講習会や報知器の設置を進めてほしい。

熱中症救急出動が多いと聞く。

熱中症による出動あったと周知すれば、予防の啓発となるのではないか。

委員

消防団はボランティアだと感じる。町内会の負担金も出している。

分団旗等を購入したと聞いたが、そういった物品の購入よりも、消防団員に手厚い報償を。

松久署長

消防団員には、出動報酬、年報酬がある。国が設定する最低限の基準にはなっている。

令和6年度から大型免許の取得にも出している。

町内会の負担金は消防団後援会に充てられている。

消防団は本来公費で賄うが賄いきれない部分を支えている。

委員

SNSで消防団員の方が発信しているのを見た。

活動等について広報誌や町の公式なものでも発信をしてはどうか。

委員

住宅火災報知器の普及について、普及のため訪問をしている町がある。

芽室町でもやってみては

松久署長

担当員1人が各戸訪問することを、昔は行っていた。

現在は独居老人について、女性団員が回っている。

昔と比べ救急が3倍に増え現在も昔と同様には難しい。

個人情報に気にする方も多く、家に上がってほしくない方や、1人での見回りは危険があるためできない。そのため、事業所を中心に今は行っている。

公立芽室病院の訪問看護とも連携をしている。

③親切・便利な行政サービスの推進

○質問

委員

事業費が増えた要因は

松田課長

コンビニ交付対応、キャッシュレスレジの導入が主である。

委員

今後この金額が続くのか。

松田課長

導入費のためこの金額が続くことはない。

○評価の妥当性

妥当 C 5人

委員

成果指標の目標値をみて前進と判断。

行政と住民の役割分担の共通認識を図ってほしい。

委員

成果指標の目標を超え続けていることを評価

○今後の取り組みに対する意見

委員

住民意識調査で、子育て環境が良いというのが多かった。

委員

行政との役割分担が大事だと感じる。

ホットボイスの要望内容について、住民側からその意見はどうかと話が出ていて、住民との関係性が良好と捉えた。

出来ない理由や、こうすればできるという説明を丁寧に行うと、住民が主体的に動けるような情報提供に繋がりが良いのではないかと。

委員

役割分担の考え方を辛抱強く進めることが大事。

委員

デジタル化については、高齢者や弱者を配慮して進めてほしい。

委員

多くの職員は頑張っていると思うが、少数の職員が評価を下げている印象。辛抱強く指導を。行政サービスは、住民の声を聴きながら進めてほしい。

委員

行政と住民の役割分担とは具体的には

佐々木課長

災害の自助共助公助のイメージ。
道路の補修などの通報等。

委員

研修はどのように決めるのか。

佐々木課長

計画に沿って進めている。時勢に合わせて変更もする。

委員

職員からの提案は。

佐々木課長

職員からの提案もある。
他の団体が行っている研修も参加できるよう周知している。

佐々木課長

住民意識調査厳しい意見もある。
そういった意見も受け止めながら、サービス向上のために取り組んでいきたい。

④住民自治の実現と地域の活力の維持

○質問

なし

○評価の妥当性

妥当ではない C 4人

委員

成果指標が前年度より向上。町民活動支援センターとの連携、成果を上げている

委員

委員

成果指標の上昇

委員

成果指標は上がっており、華音、図書館祭り、住民が自発的に動いている場面をよく見る。行政の後押しも評価。

妥当 D 1人

委員

成果指標は上がっているが、町内会の活動が衰退しているため。

○今後の取り組みに対する意見

委員

町内会会員減っている。

全国的に減少傾向ではあるが、芽室町の減少率が高い。町内会会員の減少は危急の危機である。

活動の継続に向け、

- ・町内会の活動内容を絞る
- ・どのようになれば町内会に入るかアンケートを取る

をやってみたい。

町内会長が長期継続の場合、次代会長の大変さがあるのではないか。

委員

まちづくりに対して、アイデアはあるが言えない、行動できない人が居るのではないかと。役場職員が第三者の立場からかかわって、仲介してほしい。

委員

住民自治について、町の方針が重要だと思う。

委員

人口問題が顕在化し、高齢者対策がもっと深化した課題がでてくる。その際に、町内会が核になっていくのではないかと思う。町内会の助け合いという意識が薄く、問題意識を持っている。町内会が復活して欲しいと思う。

ホームページで人口データ毎月見ている。

75歳以上でまとまっているが100歳までわかるよう追加しては？

委員

コミュニティは必要。地域1人1人が自分の得意を出し活躍することで、生きがい等にもつながる。

町民活動支援センターと役場のつながりやその団体のPRをするとよいのではないかと。

矢野係長

新たな担い手というのは課題と認識している。NPO、PTA、子ども会、商店会、企業など住民自治の担い手を増やしていきたい

渡邊補佐

生きがいや誇りは町内会に限らず解決策につなげていきたい。

矢野係長

町民活動支援センターは自主的な活動を支援発展するために設置している。

144団体あって運営支援や会員増加など手伝っている。

委員

町内会に限らずいろいろな団体とも協力し活性化につながっている。

⑤効果的・効率的な行政運営

○質問

委員

施策の成果指標について総合計画で合わないものもあるといった声があったが、見直しは行うのか。

有澤課長

ピタッと合うものは難しい。次期計画に反映を考えている。

委員

住民意識調査の問の文言も変わってくるか。

有澤課長

可能性はあるが大きな変更は難しい。

○評価の妥当性

妥当 C 5人

委員

成果指標が増加している。

○今後の取り組みに対する意見

委員

数値評価だけではなくエピソード評価はどうか。

住民意識調査が抽象的。

委員

公共施設や地域集会施設の老朽化が進んでいる。再整備案早めに公表してほしい。

委員

DXの基本理念として個人情報の保護を特に守ってほしい。

有澤課長

住民意識調査、今後内容を精査する。

エピソードの評価は担当課評価で対応をする。

佐藤補佐

公共施設は縮小していく想定。地域と協議を続けていく。

日下参事

「住民の利便性の向上」「行政運営の効率化、高度化」「確かな安全、安心」を柱にしている。役場には機密情報がたくさんある。そういったものを事件事故から守るために、技術的なものはもちろん、職員一人一人の情報リテラシーも向上を図り進めていく。